

「コミュニティひろば」

手作り品に人気

「福祉の店ナカヤ」が開店

「われわれの職場ができて業務を開始。ハイレスカスや 祖忠治店長」注文が殺到しました。ハンディを持 ブーゲンヒリアをモチーフにしている。

つ人たちが中心になって作 にしたキーホルダーやコー 代表の中村さんらは「今 った「福祉の店ナカヤ」(中 スターなどを観光みやげ品 後もつと従業員を増やす予 村昌信代表 が那覇市小禄 店に卸している。材料集め 定。働きたい人は連絡して にオープン。十九日夜、関 から販売まで一連の工程す ほしい」と事業拡大に意欲 係者が集まり和やかに開店 べてを手作業でこなす。ア を見せている。

「同店は下肢障害を持つ人 かが受け 早くも大人気。 8の7161。 たち七人とパート三人で営 一間に合わないほど」(屋富

クセサリー類は手作りの温 同店への連絡は☎098



「身体障害者の働く場ができてうれしい」と話す屋富祖さん(写真右)と妻の良子さん



「自分たちの店がオープンし、喜びいっぱいのメンバーたち」那覇市小禄

やっと働く場ができた

障害者が「福祉の店」開店

やっと自分たちの働く場ができた。那覇市小禄に身体障害者が協力して造った福祉の店・ナカヤ(中村昌信代表)がオープンし、十九日夜、関係者ら約四十人が集まり開店祝賀会が催された。

ナカヤは下肢障害者七人が中心となり、すでに八月から活動開始。十八日に「ナカヤ」の看板を掲げた。現

在、十人の従業員が沖繩の草花を合成樹脂で加工した小物を作り、ホテルや民芸品店など二十カ所に販売。最近では手作りの温かみと質の良さがうけて、注文がひっきりなし。写真をキーホルダーや壁掛けに加工するサービスも人气的となっている。

事業責任者で、作業場を提供している屋富祖忠治さん(右)は「今では午前一時すぎまでの残業も多い。この作業場では手狭になってしまった」、従業員の宮里治子さんも「忙しく働くことは本当に楽しい。自分たちの製品が人気を集めていると思うとうれしい」と働く充実感でいっぱい。

出席者らは「ナカヤの看板を上げたからにはもっと広い作業場を造り、多くの身体障害者の働く場にしてい」と決意を新たにしていた。